

地 球 温 暖 化 対 策 計 画 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	山崎製パン株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	東京都千代田区岩本町3-10-1
工場等の名称	山崎製パン株式会社 名古屋工場
工場等の所在地	名古屋市西区玉池町36番地
業 種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	パン・和菓子・洋菓子等の製造・販売
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和6年3月31日

2 地球温暖化対策計画書の公表方法等

公 表 期 間	令和5年6月22日 ～ 令和7年3月31日		
公 表 方 法	○	掲 示 閲 覧	（場 所） 名古屋工場敷地内
		ホ ー ム ペ ー ジ	(HPアドレス)
		冊 子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	TEL 052-501-1119		

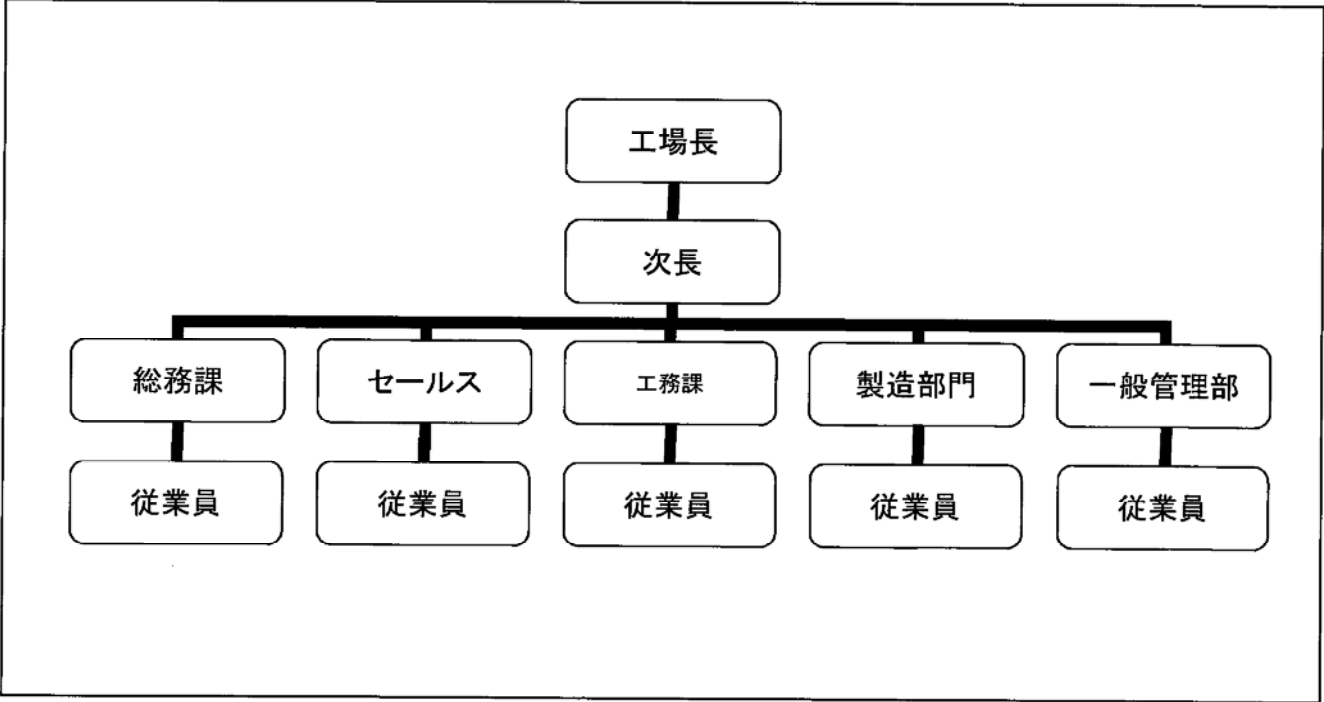
3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社は地球温暖化対策をはじめとする地球環境保全の重要性を認識し、事業活動のあらゆる分野を通じて、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

- 1. 継続的な環境改善
中長期計画書に基づき継続的な改善を図ります。
- 2. 省エネルギー活動の推進
事業所で使用する電気・燃料等のエネルギー原単位を1年置きに1%削減します。
- 3. 環境に配慮した自動車の利用の推進
事業所で運行管理している自動車を、低公害車への変更を推進していきます。
- 4. 廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進
廃棄物の発生量を抑制します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（平成 3 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		27,008	t-CO ₂
①を （温室効果ガス 換算） 排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	27,008	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和 6 年度 目標削減率	
温室効果ガス 総 排 出 量	27,008	t-CO ₂	26,738	t-CO ₂	1.0	%

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和 6 年度 目標削減率	
原単位あたりの 排 出 量	699.3	t-CO ₂ / 10億円	692.3	t-CO ₂ / 10億円	1.0	%

（2）目標設定の考え方

・空調機並びにエアーコンプレッサーをインバーター仕様に更新を計画し、1.0%削減を目指す。
・モーター・ポンプを高効率仕様に更新しインバーターを設置の計画を進める。

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・ 省資源の行動の実 践・冷暖房	冷暖房の適正化。	空調フィルターの掃除等効率の良い運 転の為に点検・保守管理の実施。
省エネルギー・ 省資源の行動の実 践・照明	使用してない部屋や 稼働時間外の消灯を徹底 する。	省エネルギー巡回の施行。 人感センサーの設置。 LEDに仕様変更。
フロンガス等の 排出抑制	地球温暖化係数が低い 物質へ変更。	旧冷媒仕様の空調機の更新。
自動車等輸送機関に 関する対策	配送コースの見直しによる 走行距離の短縮を図り燃料使用量の削減	ハイブリッド車の増車
廃棄物の 排出抑制	分別廃棄物の徹底と再資源化を 図る。	
省エネルギーによる 巡回	水・電気・ガスの使用量の確認	一日の使用量算出。
省エネルギーによる 自主点検	各所スチームトラップの動作点検	年一回動作点検。 不良箇所は随時交換。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組